

にかほ市内3中学校 地元で働く楽しさ体験

金浦中生 料理店で調理、接客学ぶ



にかほ市の中学校3校で夏から秋にかけて、地域で働く大人が体験や講話を通じて働きがいや自分の生き方を伝える授業が行われた。レストランや商店を経営する人たちなど計16人が講師を務め、生徒たちが地域で働くことの意義や楽しさを学んだ。

市にゆかりのある若者が地域のために知恵を出し合う「にかほ市若者100人会議」の部会の一つ、「子育てしやすいまちづくり部会」が中心となり実施。仁賀保、金浦、象潟の市内3中学校と連携し、地域で働く大人が学校に出

向いて講話したり、仕事の体験プログラムを用意したりして授業を行った。

このうち金浦中では、3年生30人を対象に、7～10月の計4日間で体験授業が行われた。生徒が「レストラン」「クリエイティブ」「食ものづくり」の3チームに分かれ、商品の企画やベビーマッサージ体験などを行った。

レストランチームの生徒9人は、にかほ市平沢のフランス料理店「レメデニカホ」で調理や接客を体験。最終日の10月4日には、本田雅之副市長ら6人を店に招き、自分たちが食材を仕込んで盛り付けた「地元野菜と魚介のジュレ」「太平山ポークのブレゼ」などを提供した。

コック帽やコックコートを身に着けた生徒たちは、渡邊健一オーナーシェフ(44)からアドバイスを受けながら具材やソースを皿に盛り付け、客の食べるタイミングを見計らって皿を配膳した。

チームの一人、小林侑史三さん(15)は「飲食業で働くことは考えていなかったが、楽しさが分かって仕事への見方が変わった」と話した。

また、体験の前後には3年生全員が学校で、自分たちの将来などについてディベートも行った。「にかほと都会、どちらが住みやすいか」「中学3年は大人か」をテーマに生徒同士で議論を交わし、現在の自分や将来の暮らし方について思いを巡らせた。

この事業は昨年度から実施しており、来年度も行う予定。子育てしやすいまちづくり部会の國重咲季部会長(28)は「にかほにもさまざまな大人がいることを知って、将来の生き方の選択肢を増やしてほしい」と話している。

若者100人会議には、子育て部会のほか、「若者魅力」「人と文化」「稼ぐ力」の3部会がある。

(進藤麻斗)

(令和5年10月17日(火) 秋田魁新聞より一部抜粋)